

被災12市町村における  
地域のつながり支援事業  
取組事例集



ア  
イ  
つ  
な  
が  
る  
イ  
デ  
ア  
は  
い  
ろ  
い  
ろ  
!

# ごあいさつ

本事業は、東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い避難指示等の対象となった被災 12 市町村（福島県田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村及び飯舘村）における被災された方々とのつながり創出を通じ、地域の活性化、さらには産業振興やまちづくりにも資するような取組を支援することを目的とし、令和 7 年度「地域経済政策推進事業費補助金（被災 12 市町村における地域のつながり支援事業）」を実施しています。加えて、平成 28 年度から開始した本事業も今年度末で丸 10 年を迎えようとしています。

震災から 15 年が経過した被災地域では避難指示の解除やインフラの復旧など復興が着実に進む一方で、故郷に戻れていない住民の方々も少なくなく、かつての賑わいや地域のコミュニティの再建にも至っていません。こうした中で大切なことは「心のつながり」を通じた「コミュニティの再生」です。本事業では、過去 10 年間で多くの取組を支援してきており、人々のつながりの創出や再生、さらには地域に活気が生まれています。

令和 7 年度には被災 12 市町村で本事業を活用して、地域のお祭りやスポーツ大会、避難者同士の交流会など、被災された方々の交流機会の創出や地域活性化につながる取組が実施されました。その一例をこの事例集にまとめさせていただきましたので、今後の活動の一助となれば幸いです。

最後に、この事例集の作成にあたり、取材や資料のご提供などにご協力いただきました各取組団体の皆様をはじめ多くの関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

令和 8 年 3 月 株式会社 福島中央テレビ

令和 7 年度地域経済政策推進事業費補助金

（被災 12 市町村における地域のつながり支援事業）事務局

# 目次

被災 12 市町村における地域のつながり支援事業 事業紹介

- |    |  |      |
|----|--|------|
| 01 | <b>木戸川鮎まつり</b><br>木戸川漁業協同組合（檜葉町）                               | P 03 |
| 02 | <b>つなぐ農とまちのチカラ ～紅梅夢ファームふれあい交流プロジェクト～</b><br>株式会社紅梅夢ファーム（南相馬市）  | P 04 |
| 03 | <b>～復活きゅうりジャム「都路キュウリマン」集まれ「FURU15(フルフィフティーン)」～</b><br>ゆめか（田村市） | P 05 |
| 04 | <b>相双EVレース</b><br>相双EVレース実行委員会（浪江町）                            | P 06 |
| 05 | <b>やきそばサミット2025 in なみえ</b><br>やきそばサミット2025実行委員会（浪江町）           | P 07 |
| 06 | <b>三陸うまいもの市</b><br>株式会社Oriai（大熊町）                              | P 08 |
| 07 | <b>川俣町つながる野球・ソフトボールフェスティバル</b><br>株式会社エフコム（川俣町）                | P 09 |
| 08 | <b>ランニング教室 in 富岡町</b><br>未来へA・RU・KU実行委員会（富岡町）                  | P 10 |
| 09 | <b>第4回いいたてナイター駅伝</b><br>いいたてスポーツクラブ（飯館村）                       | P 11 |
| 10 | <b>浜通りをアート発信の地にしよう！期間限定ミニシアター</b><br>健康上映会プロジェクト（川内村）          | P 12 |
| 11 | <b>地域交流スポーツ大会「MIKANカップ」</b><br>NPO法人 広野みかんクラブ（広野町）             | P 13 |
| 12 | <b>さあ行くべ！つしま肉まつり</b><br>浪江町「さあ行くべ！つしま肉まつり」実行委員会（浪江町）           | P 14 |
| 13 | <b>ふたば、ふたたび☆まちなかガーデンプロジェクト</b><br>一般社団法人ふたばプロジェクト（双葉町ほか）       | P 15 |
| 14 | <b>氷祭</b><br>氷祭（川俣町）   | P 16 |

01

# 事業名 木戸川鮎まつり

取組団体名 木戸川漁業協同組合（檜葉町）

代表者 代表理事 松本 秀夫さん



## 取組の概要

木戸川は夏の間、鮎釣りができ、多くの動植物が生息しています。近年は、地域の小学生を対象とした川での学習にも当組合で協力を行っております。このような取組を近隣住民の方々にも広く知っていただき、将来的に鮎釣りに興味・関心を持っていただくために「木戸川鮎まつり」を開催しました。

また、お祭りを通して地域住民、他地域の参加者が楽しめるように鮎のエサ釣り大会、鮎のつかみ取りを企画し、地域内外の交流促進を目的としています。

## 取組の様子

「木戸川鮎まつり」では、子供たちが屋外で楽しめる木戸川を利用した鮎のエサ釣り体験のほか、鮎のつかみ取りをメインとして実施いたしました。参加した子供たちにとって、体験を通して自然と向き合う貴重な機会となり、動植物の魅力に触れることができました。

また、地域活動を行う富岡消防署檜葉分署や地域おこし協力隊の方々をはじめとする出店者相互の交流を促す機会にもなりました。加えて、来場者数は当初の予定を大幅に上回り、約1,800人の来訪があり、地域内外の方々の交流機会の創出にも大きく寄与したものと考えています。

### 実施者の声

暑い夏のスタートは清らかで美しい木戸川で過ごしていただきたく、「木戸川鮎まつり」を開催いたしました。お祭りを通して、川に生息する動植物との触れ合い、檜葉町・木戸川の自然の魅力をお伝えすることができました。

鮎のエサ釣り大会では、親子で工夫して魚の釣果を競っていました。将来的に鮎釣り人口の拡大につながればと思います。お祭り会場ではたくさんの出店者と、ライブ演奏、子供を対象とした鮎のつかみ取りなどを行い、笑顔溢れる1日を送ることができました。

漁協に係る、各団体の皆様のご協力のもと開催でき、今後の檜葉町・木戸川の活性化につながるものと思います。

### 参加者の声

・「鮎の塩焼きをもっと食べたかった。」(小学生)

・「大抽選会があり、最後まで楽しめました。」(保護者)

・「暑さ対策がしてあり、消防職員もいたので安心して参加できた。」(出店者)

・「鮎のつかみ取りが楽しかった。」(地域関係者)

・「若い家族の参加が多く、活気があり良かったです。このイベントを通して避難先から一時的にでも地元に戻れる環境づくりが良いと思いました。」(参加団体)

02

# 事業名 つなぐ農とまちのチカラ

～紅梅夢ファーム ふれあい交流プロジェクト～

取組団体名 株式会社紅梅夢ファーム（南相馬市）

代表者 代表取締役 佐藤 良一さん



## 取組の概要

弊社は東日本大震災及び福島原発事故により甚大な被害を受けた南相馬市において、地域農業の再生と復興に貢献することを目的に設立した農業法人です。震災以降、風評被害や就農者の高齢化など、多くの課題と向き合いながら、安心・安全な農産物の生産と地域農業の維持に努めてきました。

一方で、震災・原発事故の影響により人と人とのつながりが希薄化し、日常的な交流や地域活動の機会が減少していることから、農業という地域の基幹産業を軸に地域内外からの交流機会を作り、世代や立場を越えて交流できる場が求められていると考えます。これらを踏まえ、本事業では農業体験交流プログラムと地域ふれあいマルシェの開催を通して、弊社の圃場や地域資源を活用した地域への関心や関わりのきっかけ作りを目指し開催いたしました。

## 取組の様子

農業体験プログラムはタマネギの定植体験を実施し、地域内外から30名の方々に参加いただきました。弊社スタッフが作業の実演指導を行いつつ、子供たちを中心に広く交流機会を促進しました。また、地元食材を活用した料理教室も行い、生産から食事に至るまでの一連の学びの機会になり、有意義な交流となりました。

地域ふれあいマルシェは、11月29日（土）に開催し、市内外から多くの来訪がありました。マルシェでは市内外の新鮮な野菜を含めた特産品の販売や最先端トラクターなどの展示、さらにはワークショップ等を行い、農業を知ってもらうとともに地域内外における交流の機会となりました。

### 実施者の声

当日は多くの方が参加し、とても賑やかなイベントを開催することができ、参加された方と交流し、より多くの方に弊社の取り組みや魅力を発信することができました。

自治体、地元の方々の協力もあり成功することができたこと、イベントを通して様々な方々ともつながることができ、とても有意義なイベントでした。

弊社だけではなく地域一丸となって今回のイベントに取り組み、地域の活性化やにぎわいを創出することができました。今後も地域内外で連携を図り、地域の更なる発展に貢献していきます。

### 参加者の声

- ・「楽しかった」
- ・「また来年もやってほしい」
- ・「いろんな体験ができて楽しかった」
- ・「農業体験で植えた玉ねぎしっかりと育てます」
- ・「普段見れない施設を見学できて有意義でした」

事業名 ～復活 きゅうりジャム「都路キュウリマン」  
集まれ「FURU15(フルフィフティーン)」～

取組団体名 ゆめか (田村市)

代表者 関根 理子さん



### 取組の概要

田村市都路町にあった143年の歴史を持つ古道小学校（平成29年に統合し、現在は都路小学校）において、当時担当教諭をしていた代表が小学6年生の児童と一緒に町おこしを目指し、きゅうりジャム「都路キュウリマン」の商品開発を行いました。開発後、地元商工会に販売を委ねることとなりましたが、この度、市制施行20周年となる田村市で開催された「都路灯まつり」に当時開発に携わり未来を切り開いた子どもたちが再び集まり、きゅうりジャム「都路キュウリマン」の活用やPRに向けた料理教室を開催することで、地域のコミュニティの再形成を図り、さらに生産者の生産意欲の向上と地域の産業振興を図ることを目的に実施しました。

### 取組の様子

令和7年8月9日に行われた都路灯まつりにおいて、10年前に古道小学校の児童が開発したきゅうりジャムを使った料理教室を地元小中学生や地元住民の方々を対象に行いました。きゅうりジャム「都路キュウリマン」を開発・PRしてきた卒業生達が、ジャムを使用したヨーグルトパフェの作り方を教えながら、都路キュウリマンの名前の秘密を伝えたり、開発秘話を話したり、現在の小中学生のことを聞いたりしながら、世代を超えた交流を深めました。地域住民の方も多く集まり、10年前の様子を語り合ったり、震災からの復興の様子を思い出したりすることで大変有意義な機会を創出することができました。

#### 実施者の声

都路キュウリマンの復活に合わせて開催した料理教室は、ジャム開発・PR当時の様子を現在の小中学生に伝え、世代交流の場として大きな効果を発揮しました。当時のことを知る地域住民の皆さんも、料理教室でパフェ作りに取り組む子供たちの様子を見て懐かしさを感じるとともに、都路の復興の歩みの思いに耽り、語り合う姿が見られました。

一度は製造販売されなくなってしまったジャムでしたが、今回の復活により都路地域住民の賑わいや活気を取り戻す一助になれたと感じます。成長した卒業生たちが現在の小中学生達と交流するという新たな場を提供できたことも、今後の都路地区の発展に大きな一歩となったように思います。

#### 参加者の声

- ・「パフェ作りが楽しかったです。またやりたいな。」  
(料理教室参加者)
- ・「お兄さんたちに教えてもらって楽しかった。」
- ・「小学生に、私たちが取り組んできた都路キュウリマンの活動を伝えることができよかったです。」  
(料理教室補助員の卒業生)
- ・「都路キュウリマン、懐かしいね。子ども達の笑顔を見ると一番元気が出るよ。」  
(地域住民)

事業名 **相双EVレース**取組団体名 **相双EVレース実行委員会（浪江町）**代表者 代表 **長沼 克往さん****取組の概要**

東日本大震災及び福島原発事故の影響により、浪江町民はバラバラになってしまい、もともとあったコミュニティが失われてしまいました。これに伴い、以前のように近隣の方々が交流するきっかけを作り出したいと考え、地元工業高校の生徒たちと協力しながらイベントの実施を目指し、近隣住民のみならず、町外からの高校生ら若者が地域に集うきっかけ作りや地域を活気づけたいと考え、「相双EVレース」の開催に至り、今回で3回目を迎えました。

本レースは、一定の共通条件（バッテリー等）のもと、生徒たちが自作の電気自動車を作製・プログラミングし、20分間で何周できるかを競うレースです。なお、コース会場は、ふたば自動車学校に会社敷地を無償で提供してもらうことで、地元企業との連携も図り、地域一体的な機運を高めることにも寄与しております。レースの参加校は第1回大会の3校から、第2回大会で5校11台のエントリーにまで増え、福島市の高校2校からもエントリーがあるなど、相双エリア以外にも大会の認知が広まり、参加校が増えてきています。今後も、参加校を増やしていくなど活動を継続していくことで、地域に活力を取り戻すため尽力して参りたいと考えております。

**取組の様子**

令和7年12月8日（月）、ふたば自動車学校にて「第3回 相双EVレース大会」が開催いたしました。未来の技術を担う高校生が、自ら製作した電気自動車を走らせながら技術力を競い合う場として、多くの地元住民が集まり、地域の交流機会の促進を図りました。また、参加した各校の高校生たちが、製作技術を磨き、互いに意見を交わすことで、学生同士のつながり創出にも寄与したものと考えております。

今年度は、小高産業技術高校、ふたば未来学園高校、松韻学園福島高校、福島工業高校、白河実業高校から計11台が参加いたしました。生徒たちは、それぞれが身につけてきた知識と技術、そしてアイデアを車体に込め、真剣な表情で安全を第一にレースへ臨み、地域に活気が生まれる有意義な事業となりました。

取組を通した地域の交流機会の促進に向けては、地元企業や高校との連携をより強固にしていくこと、さらには継続していくことが重要であることから、次年度以降の開催も目指してまいります。

**実施者の声**

「第3回 相双EVレース大会」を通して、大変有意義なつながり創出の機会となりました。当日は多くの参加者が集まり、未来の技術を担う高校生たちが、自ら製作した電気自動車を走らせながら技術力を競い合いました。大会に向けては、それぞれが身につけてきた知識と技術にアイデアを加え、試行錯誤を繰り返しながら取り組んできたものと思います。また、当日は地域住民も観覧に多く集まり、学生たちの白熱したレースを通して地域の賑やかしにもなったものと思います。今後も、地域高校等と連携して、次回開催を目指してまいります。

**参加者の声**

- ・「みんなで作り上げてきたマシンで、ゴールまで走れたことが嬉しいです！」
- ・「想像以上のクオリティだった！高校生が自動車を作れるのはすごい！」
- ・「練習どおりには走らなかったけど、来年は優勝したいです！」
- ・「地元で高校生が集まるのが少なくなってしまったので、賑やかしになって良い機会でした」
- ・「浜通りが産業イノベーションの地域として、今後も発展して欲しい」

05

# 事業名 やきそばサミット2025 in なみえ

取組団体名 やきそばサミット2025実行委員会（浪江町）

代表者 実行委員長 大和田 敬さん



## 取組の概要

東日本大震災及び原子力発電所事故から15年が経過し、浪江町は復興を着実に歩み、併せて発展のために変化し続けております。現在、町内に居住しているのは約2,300人であり、インフラの復旧や除染が進む中、教育、医療、福祉などの住民サービスも整備され、近年は若い事業者も増え活気を取り戻しつつあります。

また、農業をはじめとする一次産業も昨年より盛んになり、浪江産の商品を市場に送り出すことで、地域の魅力を発信しています。浪江町には観光や研修、被災地応援のために多くの人々が訪れており、その中で「なみえ焼そば」は町の特産品として全国的に知られています。震災前の2010年には「東北4大やきそばサミットinなみえ」が開催され、約30,000人の来場者を迎えました。そして2022～2024年には名前を「東北5大やきそばサミット」と変え開催し、約10,000人が訪れる成功を収めました。

これを踏まえ、地域内の交流促進などの地域活性化を目的に「なみえ焼そば」をはじめとする全国の焼きそば団体と一緒にイベントを開催することで、町の魅力発信や町民同士の絆を深める機会の創出を目指します。

## 取組の様子

令和7年9月27日（土）、28日（日）に「東北やきそばサミット2025」を開催し、2日間で約5,000人の来訪があり、地域内外からの誘客を通して交流機会の促進、地域への消費を促しました。出店者は、なみえ焼そばをはじめとする東北やきそばの5店舗に加え、静岡県富士宮やきそばにゲスト参加いただき、食を通してつながりの再確認を図るなど、笑顔溢れる有意義なイベントとなりました。ステージイベントでは、地元団体のトモダチプロジェクトによるダンスステージや、和太鼓に加え、フードファイターのMAX鈴木さんによる大食いチャレンジで会場を盛り上げました。徐々に活気を取り戻してきた浪江町の今後更なる地域の交流機会の創出に向けて、次年度以降の継続開催も目指してまいります。

### 実施者の声

「やきそばサミット2025inなみえ」は、多くの皆さまのご協力により盛況のうちに終了いたしました。

地域の食文化を通じて“つながりの創成”を図る本イベントが、やきそば以外にも水素電源によるe-sports等、新しい文化の提供で、皆さまの交流の場として機能したことを大変喜ばしく感じております。

今後も浪江町及び近隣地域の魅力発信とにぎわいづくりに取り組んでまいります。

### 参加者の声

・「MAX鈴木さんがいつも元気に盛り上げてくれて、毎回楽しめています！」

・「大画面があったのが、すごく見やすくてよかったです！」

・「Eスポーツ大会は子供や若い人が楽しめていてよかったです。」

・「色々な県から、やきそばのお店が出ていて楽しめた！」

06

## 事業名 三陸うまいもの市

取組団体名 株式会社Oriai（大熊町）

代表者 代表取締役 松井 大介さん



### 取組の概要

東日本大震災の風化が加速している近年、被災地域間のつながりを強化し、交流人口や関係人口を生み出すことで風化を防ぎ、被災地域の活性化を促す必要があると考えます。加えて、弊社の活動拠点である大熊町内においては、大野駅西口の商業施設『クマSUNテラス』の開店需要も落ち着き、施設利用者が減少傾向であることから、施設に足を運びきっかけを作ることは急務です。

これに伴い、一般社団法人石巻圏観光推進機構（石巻圏DMO）と連携し、宮城県女川町、石巻市、東松島市の農産品、海産物、加工品などの販売を行うことで施設への集客を図るため「三陸うまいもの市」というマルシェイベントを開催いたしました。イベントを開催することで地域住民同士の交流のきっかけを創出し、大熊町内のみならず、周辺地域から施設への誘客も図り、地域活性化を進めていきます。

### 取組の様子

12月9日（火）、10日（水）の2日間で開催したマルシェイベントにおいては、町内外からの多くの来場をいただきました。本イベントの集客施策として、双葉郡に加え南相馬市に地元紙の折込チラシを行ったことで、チラシを見て来場された方が全体の半分ほど見受けられました。また、大熊町外からの来場者数は全体の2/3ほど見受けられ、被災市町村を跨いだ多くの交流機会や三陸地域との震災被災地間の交流機会の創出を図ることができました。本イベント実施日が平日ではありましたが、2日間全体で来場者が500～600名程度、年齢層は20-60代と幅広い印象を受けました。

#### 実施者の声

大熊町に来たのは初めてでしたが、2日間滞在する中で新しい町並みへと変わり続けている姿を体感しました。また、「この場所は昔こうだった」という震災当時の話を聞いたり、現在の暮らしについてお互いに話し合ったりしました。販売していた商品だけでなく、町や市に興味を持って話を聞きに来てくださる方もおり、私も色々大熊町の方とお話しできて楽しい経験になりました。

#### 参加者の声

- 「(女川町が販売していた)海産物の加工品は常温保存で自宅に常備できるのでありがたい」
- 「既製品だけではなく、飲食できるものがあるとゆったりできてうれしい」
- 「わかめの詰め放題が斬新で面白かった」
- 「牡蠣汁で温まった」
- 「その地域出身の方と色々話せて楽しかった」



## 取組の概要

弊社が支援をしている社会人の硬式野球クラブチーム「エフコムBC」は、県立川俣高校の野球場を主たる練習場所として毎週土・日曜日を中心にトレーニングに励んでおります。川俣町は原発事故の影響、さらには地域からの人口流出も相まって町全体の活気が以前とは異なってきている印象です。町にある唯一の県立高校の川俣高校も、生徒の減少で野球部も廃部となり学生たちの屋外での練習風景は限定的なものとなっています。あわせて小中学校毎にあった野球やソフトボールチームの活動も再編が進むなど、スポーツを通じた交流も減ってきています。

このため、被災者とチーム関係者が協力して町内の企業や団体等と連携を図り、野球・ソフトボールを通じた地域の交流に取り組み、コミュニティを再生してスポーツ施設等の活用法を考えていくなど、将来に向けた人材育成も含めた地域活性化や産業振興の観点で新しい街づくりの一助になりたいと思い、取組の実施に至りました。

## 取組の様子

11月24日（月・祝）に野球・ソフトボール教室等を開催し、町内の小中学生を中心に多くの子どもたちが参加しました。教室では、元読売巨人軍の東野投手と和田選手が講師を務め、基礎練習の指導やプロ野球のご経験談など様々なお話いただきました。受講した小中学生同士の親交に加え、一流選手との貴重な対話機会が提供できました。また、川俣町の美味しい地元食材を活用したアスリート飯の料理教室も開催し、バランスの取れた食事指導など親御さんも交えて未来のアスリートを育てることへの理解が深まった有意義な時間となりました。

### 実施者の声

川俣町、川俣高校、町内の企業や各団体の方々のご支援ご協力により、朝から夕方までのスケジュール全体において歓声や笑顔が絶えないイベントとなりました。野球・ソフトボールに関するメニューで、参加された一人ひとりが精一杯チャレンジして互いに健闘を称え合ったり会話を楽しんでいました。スポーツは人と人をつなぐファクターであることをあらためて実感したところです。

微力ながら本取組により地域内の身近な交流の輪が再生、また新たに芽生えて広がっていくきっかけになれば幸いです。

### 参加者の声

- ・「元プロの選手の説明で、野球の基本動作とその重要性についての正しい知識を得られました」
- ・「普段は陸上をやっていますが、走塁計測やストラックアウト、野球のゲーム形式の遊びが楽しかったです」
- ・「社会人野球の選手にやさしくサポートしてもらいました。また機会があれば参加したいです」
- ・「野球という接点で地域の皆さんと交流ができて、予想以上に楽しく過ごせました」
- ・「アスリート飯の調理の過程で、食材が加わる度に変化する美味しさに魅了されました」
- ・「近くても来たことがない川俣高校でしたが、多くの子どもたちが集まり一生懸命にチャレンジする姿が印象的でした」

08

# 事業名 ランニング教室in富岡町

取組団体名 未来へA・RU・KU実行委員会（富岡町）

代表者 実行委員長 野口 美佐子さん



## 取組の概要

東日本大震災以前は、浜通りの双葉地域では子供から大人まで幅広い世代で駅伝やマラソンが行われていました。震災に加え新型コロナウイルスの影響で、駅伝やマラソン大会が軒並み開催中止となり、参加する機会が激減しています。その後、イベントなどの自粛解除を踏まえ、富岡町の恒例イベントである「とみおか復興ロードレース大会」に合わせて、当実行委員会で被災12市町村の子供達に向けたマラソンの講義を開催いたしました。講師には高橋尚子さんにご参加いただき、参加者からは一流の選手に教えてもらい大変勉強になったとの声が多く聞かれ、昨年度に引き続き令和7年度も継続して開催するに至りました。

スポーツを通じて、子供達に明るい笑顔を取り戻してもらい、未来ある子供達の交流や絆を深めるきっかけ作りの一助になればと考えております。

## 取組の様子

10月4日（土）に「ランニング教室in富岡町」を開催し、昨年度と同様に高橋尚子さんを講師として招いて被災12市町村の子供達を中心に地域内外からの多くの参加をいただきました。また子供達のほか、保護者の皆様にも参加いただき、100人以上の参加となりました。オリンピック金メダリストの高橋さんが本格的なフォームの指導などを行い、参加者にとって大変貴重な機会となりました。

スポーツを通して子供達の交流やコミュニティの再生を図ることで、地域にとっても活気に繋がる有意義な時間を提供することができたと考えております。

### 実施者の声

- 高橋尚子さんから習った筋トレ毎日欠かさず寝る前に行っています。高校最後のインターハイ、結果につながるようにトレーニングを頑張りたいです。
- 怪我をした時の練習方法も学べて大変参考になりました。次回も参加します。
- 震災後離れてしまった陸上部の仲間と会えて、一緒に練習ができて嬉しかった。

### 参加者の声

- 高橋尚子さんの指導を受けて練習後、みんなより1本多く100メートルを走るように心がけております。ありがとうございました。
- 今後の練習の参考になりました。
- 継続してこのランニング教室を続けて下さい、次回も楽しみにしています。

# 事業名 第4回いいたてナイター駅伝

取組団体名 いいたてスポーツクラブ（飯舘村）

代表者 理事長 大澤 和巳さん



## 取組の概要

飯舘村は、東日本大震災による原発事故以降、全村避難で村民が離れ離れになり、交流の機会が減少していました。昨年度、3回目となる「いいたてナイター駅伝」を実施し、大会を通して、コミュニティの再構築や飯舘村外からの参加者との新たなつながりの創出に寄与しました。今年度も飯舘村で「ナイター駅伝大会」を開催し、参加者同士のつながりを深め、村内外からも新しい参加者を募ることで、新たなつながりを創出する機会となっております。

今後こうしたスポーツイベントを通じて、コミュニティの再形成や地域経済の活性化、飯舘村のPRにつなげていきたいと考えています。

## 取組の様子

8月2日（土）に「第4回いいたてナイター駅伝」を開催し、計52チームのエントリーをいただきました。今回は、1部（小学生・シニア）、2部（中学生・フリー）、3部（フリー）とカテゴリーを増やしたことで幅広い世代が交流を深めることができたと感じました。また、講師によるランニング教室も実施し、子どもから大人まで楽しみながら実施していました。村外からも多くのチームに参加いただき、競技を通じて新たな交流も生まれていました。

イベントでは、参加者や保護者が自チーム問わず応援し、会場に一体感が生まれ、全員でイベントを盛り上げる姿が見られました。新たなつながりを創出でき、交流を深める機会ができたと感じています。

### 実施者の声

第1回目から開催日を8月第1土曜日と定めたことから、毎年楽しみにして頂き告知後すぐに参加申し込みをくださるチームも多く大変感謝しております。今回で4回目となる「いいたてナイター駅伝」も村内、村外からの参加者も増え、天候も悪い中例年通り大変盛り上がった大会となりました。「いいたてナイター駅伝」は、「飯舘村の走る文化の継承」と地域とのつながり、交流を深める大会にしたいと思い開催しています。福島県内外から多くの方の賛同と協力をいただき開催できることを嬉しく思います。今後も継続し、より交流が深まる大会にしていきたいと考えております。

### 参加者の声

- ・「今回初めて走るんだ！」
- ・「去年よりも速いタイムで走れた。」
- ・「今年は1位を狙えるメンバーを揃えました。」
- ・「この大会は初めて走るのに丁度良い大会なので、子ども達をどんどん参加させているんです。」
- ・「2kmのフリーの部はありがたい。3kmは辛い歳になったので、これでまだ頑張れる」



## 取組の概要

代表の松本卓也は2024年に川内村にて自主制作映画を1本制作した際に多くの地元の方々と知り合い、ご協力をいただき、浜通りの人々のアートへの関心、そして熱い熱を感じました。そして、この熱気を終わらせることなく更に拡大させたいと強く思いました。これに伴い、我々が持つ独自の映画界のつながりを浜通りへつなぎ、アートの輪を広げることを思いつきました。1日で終わらせずに数日間に様々な映画作品を上映する“ミニシアター”という形で盛り上げ、監督やキャスト、映画関係者を招き、彼らにも直に浜通りの風を感じてもらい、川内村の方々との交流を通じてコミュニティの発展や産業振興に繋げようという試みです。浜通りのアートの輪が広がり、新たな刺激も生まれ、地域の活性化が進むと思っております。

また、映画館や配信ではなかなか見ることが出来ない、独立系映画をメインで上映する事で、貴重なアート体験となり、多様な文化を促進するきっかけになると思っております。

## 取組の様子

12月27日～29日の3日間で「ミニシアターがやってきた」と題して映画上映会をいわなの郷で開催し、30分程度の短編映画から100分程の長編映画まで、計17本のさまざまな映画の上映会を行いました。当日は、村内外から多くの参加者にご参加いただき、住民同士の交流機会の創出、地域の映画に対する機運も高まったものと思えます。

また、交流プログラムとして、映画監督やプロデューサーなどの映画関係者との参加者交流会も実施し、川内村の情景や風土など、この地域ならではの魅力などにも触れつつ、地域住民との深い交流機会を創出することができました。

### 実施者の声

川内村、浜通りの皆さんが、独立系映画とはどんなものだろうかと、好奇心を持ってこの取組に足を運んでくださったことが印象に残りました。映画をきっかけに対話や交流が生まれ、映画には人と人をつなぐ力があると改めて感じています。この取り組みを一過性で終わらせず、少しずつでも浜通りにアートの輪を広げていきたいと思えます。

### 参加者の声

- 色々な自主映画を楽しめる良い機会となった。
- 1日に何本も作品が観られて楽しい映画Dayでした。
- 次から次へと上映されなかなか気合いの入った上映会であった。
- 関係者による映画評も聞いたのが面白かった。
- もし次回もあるのなら、寝袋とパソコンを持って行き、仕事しながら居眠りしながら、映画についての楽しい話を聞くのも悪くない。

# 事業名 地域交流スポーツ大会 「MIKANカップ」

取組団体名 NPO法人 広野みかんクラブ（広野町）

代表者 理事長 根本 満さん



## 取組の概要

平成24年に復興祈念大会として、「第1回MIKANカップ：フットサル大会」を開催し、年々種目や開催数を増やしなが  
ら「MIKANカップ」事業として地域住民の交流や、広野町の現状を伝える情報発信の機会として継続して実施して参りました。初回開催から14年目となる今年度についても地域住民同士のコミュニケーションを活性化し、健康維持や生きがいのある社会づくりとスポーツ振興を図ることを目的に実施いたします。今年度は、野球大会、フットサル大会、ソフトボール大会、バドミントン大会、バレーボール大会、陸上大会の計6種目で大会を開催する予定でしたが、野球大会は雨天中止となったため計5種目を実施いたしました。

広野町民をはじめとする近隣市町村の方々にも参加いただき、地域間の交流促進にも繋がりました。

## 取組の様子

各大会の情報については、当クラブの公式ホームページやSNSでの発信、広野町広報誌への掲載協力等もいただき、広く周知することができました。これにより、今年度は計5種目のスポーツ大会を開催し、町内外から約560名の方々に参加をいただきました。各大会には、子供から大人まで広い世代に参加をいただき、地域の活性化にも繋がったものと思います。

スポーツを通して避難などにより薄れてしまった地域のつながりを取り戻し、町民同士の交流だけではなく町外の方との交流機会も創出することができたと考えております。

### 実施者の声

本大会を通じて、参加者同士の交流や地域の活気を感じることができました。

今回は、種目の異なる5種類の大会を開催し、子どもから大人まで幅広い世代の方々に参加していただき、世代を超えて競技に取り組む姿が多く見られました。

それぞれの大会で笑顔や真剣な表情があふれ、スポーツの持つ力や魅力を改めて実感しています。

今後も、地域に根付いた大会として継続するとともに、多様な競技を通じて交流の輪を広げ、地域のスポーツ振興に貢献できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

### 参加者の声

・「子供から大人まで楽しめるいい大会だね！」

・「会社みんなで参加しました。来年は優勝します」

・「毎年楽しみにしています！」

・「大会実況があって面白い」

・「初心者でも参加できる大会があってうれしいです」

# 事業名 さあ行くべ！つしま肉まつり

取組団体名 浪江町「さあ行くべ！つしま肉まつり」実行委員会(浪江町)

代表者 実行委員長 古山 久夫さん



## 取組の概要

東日本大震災及び原発事故が発生した15年前に浪江町津島地区は、帰還困難区域に指定されました。津島地区住民は、避難指示により各家庭それぞれに避難したため住宅退去と共にバラバラになってしまい、これまでのコミュニティも無くなってしまいました。原発避難から12年目の春、津島地区の帰還困難区域のうち、解体と除染作業を終えた特定復興再生拠点区域で避難指示が解除されました。再び地元津島地区でバーベキューイベントを開催することで、地区住民が津島に足を運びきっかけとなり、ふるさとの地で住民同士の交流が深まり、絆づくりの強化につながるものと考えました。

過去2か年の開催を踏まえ、今年は会場の配置やステージイベントの内容、広報の方法などを見直し、地区住民だけでなく町内外へ広く発信し、津島の現状とようやく緒に就いたこれからの津島の復活を知らせる事業を目指しています。

## 取組の様子

10月19日（日）に「さあ行くべ！つしま肉まつり」を開催いたしました。震災以前に行っていたバーベキューイベントを復活させることにより、地域住民のつながりを取り戻すため開催に至りました。避難先ではなく、ふるさと津島の地でイベントを開催したことで、初めて津島を訪れた方々や久しぶりに顔を合わせた住民同士の交流やふれあいを通じ、参加された人々の心のつながりを広げることができました。

また、津島地区で営農を開始予定の事業者の出店もあり、これからの津島のビジョンを示すことができる事業になると感じました。

### 実施者の声

3年前、津島地区の人限定で開催した「つしま肉まつり」が、どんどん規模を拡大し、今年は津島地区内外のさまざまな人たちの交流の場になったことはとても嬉しいです。当日は、浪江町内外から多くの皆さんが来てくださり、津島地区の過去、現在、そして未来をお伝えする機会が得られました。子供たちの参加も少しずつ増え、長年、放射線関連で避難指示区域に指定されていた津島地区の悪い・怖いイメージも徐々に変わってきているのではないかと感じます。今後も、町内外へ津島地区の歴史や今を伝えていく活動やイベントを行っていき、津島のさらなる復興と再生に貢献していきたいと思えます。

### 参加者の声

- BBQの福島牛がとてもおいしかったです。
- 津島の懐かしい写真の展示があり、また、旧友と会えて、昔を思い出すことが出来ました。
- ステージイベントが楽しいです。子供たちによるステージも感動しました。
- 津島の空のしたで、こんなに楽しいイベントができてとてもうれしいです。
- 初めて津島に来て、避難指示が解除された今の様子を見ることができて良かったです。
- 来年も参加したいと思えます。

事業名 **ふたば、ふたたび☆まちなかガーデンプロジェクト**

取組団体名 **一般社団法人ふたばプロジェクト（双葉町ほか）**

代表者 代表理事 **谷津田 尊之さん**



## 取組の概要

東日本大震災及び原発事故の影響により双葉町外に避難している方々とのつながりを維持し、双葉町内を花で明るく彩ることを目的に「ふたば、ふたたび☆まちなかガーデンプロジェクト」を実施しました。今も様々な理由で町へ帰還できない方においても、町へ足を運ぶことが難しくとも避難先で花を育てることで町への想いを馳せる時間を継続的に作り出すこと、また自分が植えた花が町を明るく彩り、来訪者へ明るいイメージを与えていると知ること、ご自身も故郷の力になると感じてもらう機会を創出しました。

## 取組の様子

11月中旬に町民の避難先である県内外の5カ所を訪問し「ガーデンプロジェクト」を開催しました。参加者の方々には、故郷へ思いを馳せながら避難先で花々を育てていただき、震災以前のつながりの維持に寄与したものと考えております。

花植え後に参加者に町内の復興状況等を伝えるなど、写真を見ながら、実際に町内で働いている職員が町内の様子を話したり、質問に答えたりすることで、町の復興が前進していることを知ってもらい、帰還意欲の向上や町の魅力を再認識する一助となったものと考えております。避難先で花植えを行ったプランターの半数は双葉町に持ち帰り、多くの来訪者が訪れる双葉駅前に設置し、町を鮮やかに彩っています。離れていても町と町民がつながりを感じてもらえる有意義な事業となりました。

### 実施者の声

町民の避難先を訪れプランターに花を植えてもらう取り組みは5回目となります。町民の高齢化が進み、避難先から町へ足を運ぶことができない町民が増えていることを課題に感じ、今の町の様子を伝えるため、今年初めて「お茶会」を盛り込みました。これまでのガーデンプロジェクトの取り組み紹介と今の町の様子を写真を見ながら説明することで、参加者同士で震災前の思い出話やこれからの町の動きについて話す場面がみられ、明るく前向きな雰囲気で開催できたことをとても嬉しく感じています。

### 参加者の声

- ・「毎回参加していたが、駅前に自分が植えた花が飾られている様子を初めて見ることで、嬉しい」
- ・「町内でこんなにきれいに花が咲いているんだね」
- ・「双葉町のバラ園の景色を思い出した」
- ・「これから町内に作られる町立学校について知りたい」
- ・「次回双葉町に帰るときは、新しくできたお店に行ってみよう」

事業名 **氷祭**取組団体名 **氷祭（川俣町）**代表者 代表 **吉村 雅夫さん**

## 取組の概要

東日本大震災・原発事故前の川俣町山木屋地区では、地域全体のつながりによって天然のスケート場が整備・利用されてきました。地域のつながりも活動機会も年々少なくなっている昨今では、山木屋地区を象徴する冬の風物詩として、地域内外の交流機会となっております。この山木屋のスケート場は、令和4年に大学生を中心とした新体制へと継承され、若い世代が地域の想いも引継ぎ、毎年、天候不順と闘いながらリンク整備を継続しています。

これまでのイベントは、一般の方よりもスケート経験者に限定した交流でありましたが、未経験者を含めたより多くの被災された方々が町内外の方々と交流できるよう、スケート体験教室、氷を使った子供の遊びやアイスショーイベント、飲食出店、打ち上げ花火を企画し、冬の山木屋を楽しむ新しい形で、祭りを開催いたしました。

## 取組の様子

1月31日（土）に、氷祭と題して山木屋スケート場を活用した交流事業を開催いたしました。当日は、町内外から多くの方々が参加し、山木屋太鼓なども披露され、山木屋の魅力を知っていただく機会に繋がったものと思います。また、スケート教室においては、フィギュアスケート講師による本格的な指導もあり、子供たちを中心に大変有意義な経験にもなっております。スケートの自由滑走の時間帯には、幅広い年代の方々がスケートを通して交流を深め、地域一体的なつながりが生まれていました。加えて、夜には打ち上げ花火を実施し、山木屋地域の夜空を彩りました。

## 実施者の声

東日本大震災・原発事故、さらには新型コロナウイルスの影響等により、地域の催し事が一部制限されるなど、山木屋地域での交流を伴うイベントが少なくなっている状況でありました。その中で、地元大学生の協力等を得て、何とか今年度も開催に至ることができました。

田んぼスケートリンクは、気温が低いことで凍結して形成されますが、雪が降ってしまうとリンクの表面がきれいにフラットにならないなど、天候も気にしながら準備を進めておりましたが、当日は天候にも恵まれ多くの来訪、交流の機会となりました。今後も山木屋地域の冬の風物詩として県内外からの来訪や交流機会となるように、次年度以降も検討を重ねて、より良いイベントを目指していきたいと思っております。

## 参加者の声

- 「初めてのスケートは怖かったけど、楽しかった！」
- 「人がたくさんいて賑わっているなど感じました！」
- 「田んぼでスケートはなかなか体験できないところ、大変良い経験となりました！」
- 「どんどんイベントをやってもらえれば来訪される方も増えて良いと思う。」